愛読者の皆さまに感謝の一年！

　２０１９年は読者の皆さんにとって、どんな年だっただろうか？

　昨年末にサンパウロ新聞が廃刊したことの余波が、繰り返す波のようにいろいろな場面で押し寄せてきた。取材依頼が例年以上に多いと感じたのは、その一例だ。

　年明けに４００人ほどのサ紙読者が弊紙に移ってきてくれた。別の新聞を読むという決断は、読者にとって大きな、重いものだと承知している。心から感謝したい。

　サ紙読者の多くは購読料を年末年始に払っていたと聞く。つまり翌年の購読料を払ったばかりのところで、「寝耳に水」のように昨年末に廃刊となり、頭に来た読者も多数いたと聞く。

　その余波を受けて、「どうせニッケイ新聞もすぐに潰れる。乗り移ってすぐに潰れたら、嫌な思いを繰り返すことになる。それなら、もう購読しなくていい」と読まなくなった方も多数いるという話も方々で聞いた。

　逆にいえば、「それだけサンパウロ新聞を愛読していた」からこそ受けた廃刊のトラウマ、ショックだろう。まったく無理もない話だ。実際のところ４０年、５０年も愛読していた新聞から、ある日突然「廃刊します」と宣言され、その１週間後に実際にこなくなるーという経験は悪夢だ。

　しかも、晴れ晴れとした期待感一杯の気分で読みたい新年号が、最後の号になった。「２０１９年は、なんという嫌な形で始まった新年か…」と嘆いたサ紙読者も多かろうと想像する。

　とはいえ、邦字紙全体としてみれば、たとえどの新聞の読者であれ「邦字紙を愛読してくれていた」という事実は誠にありがたい。早くそのトラウマが癒えてくれることを心から祈りたい。

とにかく忙しかった１年

　編集部としてこの一年を振り返ってみると、「とにかく忙しかった」の一言に尽きる。

　普通に考えてみると、一世は減っているのだから、日本語で記事を出す需要は減ると思える。どの日系団体でも二世、三世が中心になっている時代だ。日本語新聞を読まない世代であり、彼等にとって日本語新聞の存在意義は薄れているはずだ。

　だが実際は「日本とのつながり」「日本から来賓を呼ぶので日本語の記事も出してほしい」「日本の人にも読んで欲しい」という意味で、思いのほか日本語で記事を出す必要性は残っている。

　裏を返せば二世、三世の時代になっても日本とのつながりはそれだけ多く、重要だという認識が続いている証拠でもある。本当にありがたいことだ。日系団体のイベントはむしろ年々増えており、「ネタは尽きない」どころか「こなしきれていない」のが現状だ。

　興味深いことに、日本語で記事が出たことで、取材依頼をしてきた日系団体は「その案件は国際的にも注目されている」とブラジル側の重要人物や官憲に見せて、アピールするという風にも使われている。

　そんな忙しい取材の合間を縫って、今年は３冊の本を刊行した。ざっとそれを振り返ってみたい。

子孫に読んでほしい『眞子さま写真集』

日本文化
Uma análise dos acontecimentos atuais, sua história e cultura
TODOS OS TEXTOS EM PORTUGUÊS E JAPONÊS COM FURIGANA
CULTURA
Japonesa
entendendo o Japão
9
Edição Especial
日本文化９巻特別号
2018年ブラジル日本移民110周年記念
眞子さまご来伯記念写真集
A VISITA DE SUA ALTEZA IMPERIAL PRINCESA MAKO
2018 - COMEMORAÇÃO AOS 110 ANOS DA IMIGRAÇÃO JAPONESA NO BRASIL
Patrocínio: Fundação Kunito Miyasaka, Comissão para Comemoração dos 110 Anos da Imigração Japonesa no Brasil
協賛：宮坂国人財団、ブラジル日本移民110周年実行委員会
サンパウロ青年図書館
JORNAL
ニッケイ新聞
NIKKEI SHIMBUN
A VISITA DE SUA ALTEZA IMP

２００８年』を刊行した。

　今年１０月の即位礼正殿の儀の折、あの写真集をとりだして、まざまざまとご覧になった読者も多いのではないか。リオのポン・デ・アスーカルの上でカメラを片手に微笑む姿など、素顔の陛下を垣間見られる貴重な写真が収められている。

　今回の眞子さま写真集からも、「日本という国の長い、長い歴史の流れの延長線上に、日系人としての自分がいること」「平野植民地、ノロエステ地方、トメアスー移住地をはじめとする明治以来の数えきれない移住に関する試行錯誤」「多くの善意や喜怒哀楽の積み重ねの上に、今の日系社会のあること」が感じられるはずだ。

　だからこそ、今のブラジルでは日系人は敬意を持って接されていることが伺われ、そこには、奥深くて、温かい、確かなものを感じるはずだ。

　そんな移民史を少しでも知ることで、日系人としてのアイデンティティが固まり、自分の存在により誇りが持てるようになるのではないか。

　我々一世にとっても、「子孫が日系人であることに誇りを強め、ただがむしゃらに生きてきた一世の人生の軌跡を高く評価してくれること」こそが、最も喜ばしいことではないか。

日本の人に読んで欲しい『移民と日本人』

移民と日本人
深沢正雪 著
（サンパウロ・ニッケイ新聞社編）
ブラジル移民110年の歴史から
日本人も移民だった!?
なぜ地球の反対にあるブラジルに25万人もの日本人は渡ったのか。移民は正しく近代日本史の中に組み込まれているのだろうか!?「隣の外国人」が他人ごとでなくなる、グローバル時代の「移民と日本人」論！
無明舎出版

『移民と日本人』（無明舎出版、２０１９年）

　本紙は今年６月に、日本で『移民と日本人』（無明舎出版、１５０レアル）も刊行した。

　なぜ地球の反対にあるブラジルに２５万人もの日本人が渡ったのか。「明治」という時代の、どんな背景の中から大量の日本人は押し出されるように地球の反対側まで渡っていったのか。

　そして「ブラジル日本移民という存在は、近代日本史から忘れられた存在になっていないか。正しく歴史の中に組み込まれているか」という問いかけをしている。

　これはグローバル時代ならではの、外国人労働者が近隣に押し寄せる生活環境になった日本の日本人に対する、移民大国ブラジルの日系社会からの提言として刊行したものだ。読み終えた人には、「日本人もブラジルで移民だった」という感覚から、「隣の外国人」が他人ごとでなくなることを期待して書かれたものだ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]COISAS DO JAPAO[illegible]

[illegible]O MUNDO AGRADECE! COISAS DO JAPAO[illegible]

[illegible]O MUNDO AGRADECE! COISAS DO JAPAO[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]